

世界遺産登録に向けて

西三川砂金山(19) — 一つの山を削り取った砂金山 —

弘化3(1846)年に描かれた「西三川金山当時稼所墨引」には、それぞれの稼場の特徴が、出る石の状態や色なども含めて記載されています。

たとえば、立残山では「青立、砂金出る」とあり、「土色青きは、生ずる処の砂金は青きなり」として、青い土の層を目当てに掘り進んだようです。峠坂の稼場では、「色赤くして紫黒を帯びるなり」とあり、「大石組の処に生ずる砂金は大きくして吉、小石組に生ずる砂金は小さくして悪し」としています。

そして、「金の盛なる時は大きく丸し、衰たる時は小さく平たく薄し」と、掘り出される石の特徴で砂金の出具合を判断しています。

このように、西三川砂金山では、一粒でも多くの砂金を得るために、遠くから幾重もの水路を引き、土の色や出てくる石を見ながら鶴嘴一本で山を切り崩し、ついには一つの山を削り取ってしまった景観が、今でも残されています。

また、絵図には、「立残、山居、峠坂、廊下口等より御役家辺まで、何れも

往古は一つの山にて、追年稼ぎ込み、当時(現在)のごとく山々孤立と相成り候由」と書かれ、砂金山の立ち始まり当初は、一つの山だったことが記されています。

昭和13年5月18日、相川金銀山の道遊の割戸を訪れた高浜虚子が、「春山を二つに絶てり金ほると」と詠んで驚嘆したのと同様、金を獲得しようとした人々の努力の痕跡を、西三川でも目の当たりにすることができ

◆市役所世界遺産推進課(金井就業改善センター内) ☎63-5136



砂金を採るために削り取られ、谷間となったとされる笹川集落の現況。

地域おこし協力隊の活動を紹介します



おおあわ 太栗 たかふみ 崇文さん

配置地区 相川地区

相川中心商店街

配置時期 平成27年11月着任

出身地 香川県

佐渡市・配置地区の印象

相川は佐渡金山で繁栄した鉱山街。観光パンフレットでしか見たことがなかった遺産や施設がたくさんあり、「本物」に出会えたことに感動しました。どこを切り取っても絵になる街で暮らせることが楽しくて仕方ありません。

配置地区での活動等

与えられた任務は、①世界遺産登録に関連した商店街イベントの企画立案、各種情報発信の拠点構築に関する業務、②「佐渡の朝市」創設の企画立案、③その他商店街の活性化に関することの3つです。こうして改めて字面を追ってみると、私には

仰々しいことのように感じられ、すみそうになります。そんな私に商店街、商工会、地域の方々はいろいろなことを教えてくれ、励ましてくれるので、とても感謝しています。今はまだ教わった内容や見たものを協力隊のブログを通じて発信するなど、細々とした活動ですが、これからはそれらをひねってしっかりとものにしていきたいです。

今後の抱負

あつという間に半年が過ぎました。強風が吹きつける相川の冬を乗り越えた割にたくましくなったのは、お腹回りぐらいです…。というのはさておき、この冬いろいろな方とお会いして分かってきたこと、気付いたことなどがあります。せめて頭にしたものだけでも整理して、地域の方と一緒に少しでも目に見える形にしていければと思います。

◆市役所地域振興課地域振興係 ☎63-4152